

平成 30 年度事業報告



(平成 30 年 7 月豪雨災害の被災地広島へ向かう日赤佐賀県支部救護班)

「人間を救うのは、人間だ。」

 **日本赤十字社 佐賀県支部**
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

ページ

OMission statement

○ 目 次	1
○ 平成30年度 事業報告（はじめに）	3
1 国内災害救護体制の強化	6
(1) 災害救護活動	6
(2) 救護体制の整備	7
(3) 災害救護訓練の実施	8
(4) 防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催	9
(5) 救護資機材の整備	10
(6) 災害見舞金・見舞品の贈呈	11
(7) 国内義援金	12
(8) 臨時救護	13
2 海外における救援活動や開発協力	14
(1) 本社の活動	14
(2) 佐賀県支部の活動	16
3 赤十字講習事業の普及	19
(1) 救急法	19
(2) 水上安全法	20
(3) 健康生活支援講習	20
(4) 幼児安全法	21
4 青少年赤十字（JRC）の活動	22
(1) 青少年赤十字加盟校の構成	22
(2) 活動状況	24
5 赤十字ボランティアによる活動	32
(1) 地域赤十字奉仕団	32
(2) 青年赤十字奉仕団	33
(3) 特殊赤十字奉仕団	34
(4) 活動状況	36
(5) 奉仕者功労表彰	37
6 赤十字思想の普及と広報体制の充実	39
(1) 平成30年度全国赤十字大会	39
(2) 平成30年度九州八県赤十字大会	39
(3) 赤十字運動イベント	41
(4) ワールド・ファースト・エイド・デー	43

(5)	博愛フェスタ2018	43
(6)	佐野祭	43
(7)	防災・減災プロジェクト～私たちは忘れない～	44
(8)	その他の広報活動	44
7	活動資金募集の推進と財政基盤の強化	47
(1)	会員数	47
(2)	赤十字会員増強運動	47
(3)	平成30年度活動資金募集実績	48
8	支部評議員会の開催	50
9	医療事業の充実（唐津赤十字病院）	51
(1)	総括	51
(2)	平成30年度の重点的取り組みに関する現況	51
ア	救急医療・急性期医療体制への取り組み	51
イ	医師の確保対策	52
ウ	看護師の確保対策	53
エ	小児・周産期医療体制への取組み	53
オ	地域がん診療連携拠点病院としての機能強化	53
カ	地域医療支援病院としての機能強化	53
キ	DPC/PDPS（診断群分類を用いた1日当たり包括支払方式）対策	54
ク	災害時医療	54
ケ	重点支援病院指定に伴う取組み	54
コ	経営健全化対策	55
10	佐賀県支部の組織・役職員	57
(1)	組織	57
(2)	役職員	58
○	日本赤十字社佐賀県支部の現勢	63
○	日本赤十字社現勢	64

はじめに

平成30年度赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。ここに、事業の概要をご報告いたします。

1 国内災害救護体制の強化

東日本大震災や熊本地震災害など国内で頻発・大規模化するこうした災害に備え、「日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画」及び「日本赤十字社佐賀県支部防災業務実施要項」にもとづいた支部救護班要員（医師、看護師、主事等）の訓練を実施するとともに、併せて、地域、九州、全国の防災関係機関が実施する多様な訓練や研修にも積極的に参加し、防災対応能力の強化に取り組みました。

特に、平成30年度は「九州八県支部合同災害救護訓練」を佐賀県支部が持ち回り開催し、被災県支部としての災害救護実施対策本部機能の充実と各県支部相互の支援体制の強化に取り組みました。

さらに、地域や学校などの防災・減災ニーズに応えるため、赤十字の知識、技術、資源を用いての「防災セミナー」を開催（約6,500人受講）し、防災・減災の思想普及に努めました。

2 海外における救援活動や開発協力

国際赤十字の一員としての日本赤十字社が行う世界各地で発生している紛争や自然災害の被災者に対する人道的な支援の一環として、緊急アピールに沿った救援金の募集活動を実施しています。

平成30年度も、12月に全国展開する「海外たすけあいキャンペーン」では、青少年赤十字メンバーや赤十字奉仕団員及び会社員など多くのボランティアの参加協力を得ながら、県内11カ所において街頭募金を実施し、日赤が行う海外救援事業の活動資金の確保に努めました。県内では期間中2,983千円（全国約6億4千万円）の救援金が寄せられました。

3 赤十字講習事業の普及

救急法や水上安全法、健康生活支援講習並びに幼児安全法など「尊いいのちと健康を守る赤十字講習」を、県内で178回開催し、約7,000人の方々に受講いただきました。事故防止の思想の普及とAEDを使用した一次救命処置が必要な緊急時の対応など、必要な知識と技術の普及に努めました。

4 青少年赤十字の活動

青少年赤十字は、「苦しむ人に手を差し伸べたい」という誰もが持っている博愛の心を育むため、幼・保、小、中、高等学校の中に組織されています。

平成30年度は、教育行政や指導者協議会及び賛助奉仕団の協力のもと、活動の普及・啓発強化策の効果で、加盟校が対前年度比3校増加し、251校(園)、メンバー総数59,160人、加盟率80%を達成しました。

また、リーダー養成のための宿泊研修(リーダーシップ・トレーニングセンター)では、「気づき、考え、実行する」行動姿勢を養った“生きる力”をもった子供達の育成が図られています。

平成30年度は前年度に引き続き、防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」と幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさい まちがいさがし はっけん」の普及促進に取り組みました。

5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字の使命に共感する赤十字ボランティアは、それぞれが保持する能力を活かして、災害救護や社会福祉、生活環境の改善のための人道的諸事業の支援者、協働者であります。

特に、本県支部管内の12の奉仕団の委員長で組織された「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」の協力を得ながら、活動の充実強化と防災ボランティアの育成に努めました。

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

赤十字思想の啓発と功労者に対する顕彰を目的とする全国や九州の赤十字大会への参加及び赤十字運動イベントの「防災セミナー」や世界同一開催の「ワールドファースト・エイド・デー」などは、広く県民に赤十字思想の普及と活動をアピールしました。

また、マスコミやSNSや広報紙などさまざまな媒体を活用して、よりタイムリーな広報・情報提供に努めました。

さらに、職員ひとり一人の広報力向上を目指す「もっとクロス！計画」に管下施設職員が継続的に取り組み、若年層への赤十字思想の普及を積極的に行った。

7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

赤十字事業を財政的に支えている本県の会員及び寄付者数は、現在個人が230,904人、法人が2,126社で、平成30年度に寄せられた活動資金の実績額は132,964,036円となっております。

人口動態や住環境の変化及び経済不況の影響など厳しい社会情勢を反映して地区区分扱の活動資金は減少傾向が続き、大口の活動資金の減少もあり前年度実績を下回る結果（92.6%）となりました。

佐賀県支部では、赤十字活動資金の安定的な確保を図るため、遺贈や赤十字支援型自販機の設置、ダイレクトメールによる法人への働き掛けを強化したほか、地区・分区をはじめとする関係者のご協力を得ながら募集活動を県内全域で展開して、財政基盤の増強に努めています。

8 医療事業の充実

平成30年度の診療報酬改定では、診療報酬本体は0.55%引上げとなったものの、全体では1.19%のマイナス改定となりました。

唐津赤十字病院では、7月に日本赤十字社（本社）から当院の経営状況について改善の必要があるとして「重点支援病院」の指定を受け、この重点支援病院の指定解除を喫緊の課題とし、医業収益の増加と費用の適正化に取り組むこととしました。

こうした中であって、紹介型の地域中核病院として、連携の強化と医療の安全と質の向上に努め、新規入院患者の確保について目標数値を上回りながら推移したことにより、入院診療収益の増加に繋げることができました。

さらに、9月には前年度から準備を進めてきた公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、平成31年2月1日付けで機能種別「一般病院2」の承認を受けました。

9 血液事業の推進

佐賀県赤十字血液センターでは、病気やけがで苦しんでいる患者さんに対し安全な血液を安定的に供給するため、少子高齢化が進展する中、行政や献血協力団体などと連携しながら、あらゆる機会をとらえて県民の皆様に献血へのご理解とご協力をお願いしています。特に、若年層の献血率は全国平均に及ばず、10代では4.2%と全国平均を下回る結果であったことから、最重点課題として取り組みを進めます。

また、問診の強化、システム化の推進、教育訓練の実施など、安全対策を一層充実させるとともに、輸血医療機関への医薬情報活動を強化し、適正かつ安全な輸血療法の向上に努めています。

さらに全国的な広域事業運営体制のもと、各ブロック単位での一体的事業運営、広域的な需給管理による安全性の向上と安定供給を確保し、県民から信頼される血液事業を展開します。

1 国内災害救護体制の強化

災害救護は、日本赤十字社の中核的な事業であり、大規模災害等非常災害時における医療救護活動をはじめ火災等による小災害に対しても被災者支援を実施しています。

佐賀県支部では、これらの救護業務を円滑に行なうため、災害救護訓練、救護員の養成、救護資器材の整備、救援物資の備蓄等、救護体制の強化に努めてきました。

特に、12月2日（日）、3日（月）には「平成30年度日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練」を担当県として実施。県内の防災関係機関との更なる連携強化や日赤第6ブロック各県支部との相互支援・受援体制の確立など対応能力の向上を図りました。



平成28年熊本地震災害（熊本県益城町）

（1）災害救護活動

佐賀県支部は、7月18日（水）から22日（日）にかけ、西日本豪雨災害の被災者救援のため、第6ブロック代表県支部（日赤福岡県支部）の要請を受けて、佐賀県支部救護班第1班8名を広島県坂町へ派遣し、救護活動を行いました。

派遣期間	派遣者及び派遣先
7月18日（水）から 22日（日）	佐賀県支部救護班第1班8名を広島県坂町へ派遣。 避難所（サンスターホール）内に設置された救護所で救護活動を展開。取り扱い患者数は計26名。



救護班出発式の様子（唐津病院玄関前）



けがをした住民に手当を施す看護師（避難所）

(2) 救護体制の整備

ア 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、4個班（唐津赤十字病院3個班、佐賀県赤十字血液センター1個班）24人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

(人)

区 分	医 師	看護師長	看護師	主 事	計
1 個 班 の 編 成 基 準	1	1	2	2	6

イ DMATの編成

「DMAT」とはDisaster Medical Assistance Teamsの頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」のこと。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本DMATチーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。

唐津赤十字病院では、平成20年7月と平成21年12月に日本DMAT2チーム（1チーム医師1名、看護師3名、主事2名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成21年4月1日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。



ウ 看護師の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。



平成30年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分（平成31年3月末現在）

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	1人	2人	2人	2人

（3）災害救護訓練の実施

ア 赤十字関連訓練

（ア）日本赤十字社佐賀県支部常備救護班要員研修会 →台風24号により中止
（波戸岬少年自然の家、9月29日～9月30日：1泊2日の開催予定）

（イ）平成30年度九州八県支部合同災害救護訓練（佐賀県担当）

（佐賀市、12月2日～3日：1泊2日）

今年度は、佐賀平野北縁断層帯を震源とする佐賀県南部の地震災害を想定し、九州ブロック支部合同の救護訓練を実施しました。

「平成28年熊本地震」の第6ブロック全体総括を踏まえ、九州各県支部から支部災害救護実施対策本部支援要員、救護班員、防災ボランティア並びに佐賀県、佐賀市、佐賀広域消防局等、総勢約300人が参集しての訓練となりました。

佐賀県支部管内からは合計26名の職員が参加。（佐賀県支部11名、唐津赤十字病院12名、佐賀県赤十字血液センター3名）

また、運営ボランティアとして県内12奉仕団から奉仕団員34名が参加しました。

○訓練の主な内容

- ①第6ブロック内相互支援及び受援体制の確立訓練
- ②支部災害救護実施対策本部の設置・運営訓練
- ③複数救護班及び防災関係機関との合同による救護所の設置・運営訓練
- ④通信の確保及び情報収集訓練



災害医療コーディネータと協議する本部員
（支部災害対策本部）



消防と連携して救護にあたる日赤救護班
（現場救護所）

イ 自治体関係訓練

(ア) 第二次九州地方非常通信訓練（日赤佐賀県支部、10月4日）

佐賀県支部 2名参加

(イ) 平成30年度航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月28日）

佐賀県支部及び防災ボランティア 6名

(ウ) 佐賀市総合防災訓練（佐賀市本庄町、11月11日）

佐賀県支部及び防災ボランティア 6名参加

(エ) 佐賀県原子力防災訓練

2月2日（土）「平成30年度佐賀県原子力防災訓練」が、玄海原子力発電所における放射性物質の放出等特殊災害が発生したとの想定のもと、唐津市、伊万里市、玄海町などのエリアを対象に、行政機関や防災機関、多くの地域住民等が参加して実施されました。佐賀県支部と唐津赤十字病院から21名の救護班員が参加しました。



スクリーニングの様子（唐津赤十字病院内）

（４）防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催

ア 防災教育事業指導者の養成

全国で実施される「日本赤十字社防災教育事業」の普及・拡大に伴い、事業（セミナー）の指導・運営を行う指導者を養成するため、6月16日（土）～18日（月）本社で開催された養成研修会に、救急法奉仕団員1名、幼児安全・看護奉仕団員1名を派遣しました。

イ 防災講習会（赤十字防災セミナー）の開催

熊本地震や西日本豪雨等の大規模災害に伴う防災・減災ニーズの高まりを受けて佐賀県支部は、赤十字防災プログラムをもとに、地域の人たちのいのちを守る実践的な知識や技術を習得する講習会を開催しました。



毛布でガウン作りを体験する参加者

防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
68回	6,500人	○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当 ○災害食作り… ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し訓練

ウ 防災ボランティア研修会「災害ボランティアセンター」立ち上げ訓練の実施
災害時における支部災害対策本部における救護活動を支援することを目的に、3月21日（祝・木）「災害ボランティアセンター」の立ち上げ訓練を行いました。熊本地震時に災害ボランティアとして派遣された防災ボランティア・リーダー2名を中心に、奉仕団員5名と職員ら5名が参加しました。



手順を確認しながら受付の設置



参加した奉仕団員と支部職員

（５）救護資機材の整備

資機材及び救援物資の保有備蓄状況

平成30年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

（ア）救護資機（器）材の保有状況

品 名	数 量	品 名	数 量
救 急 車	2台	発 電 機	4基
災 害 救 援 車	6台	投 光 器	4台
災 害 連 絡 車	4台	防 雨 ヘ ッ ド ラ ンプ	40個
救 命 胴 衣	17着	防 護 用 ゴ ー グ ル	40個
医 療 セ ッ ト	3組	折 り 畳 み リ ヤ カ ー	2台
担 架	22台	浄 水 器	1台
簡 易 ベ ッ ド	30台	無 線 基 地 局 (150MHz)	3局
患 者 用 毛 布	352枚	車 載 無 線 機 (")	28台

品 名	数 量	品 名	数 量
折 り 畳 み 舟 艇	1隻	携 帯 無 線 機 (//)	19台
天 幕	56張	無 線 基 地 局 (400MHz)	1局
ド ラ ッ シ ュ テ ン ト	1セット	車 載 無 線 機 (//)	8台
エ ア ー テ ン ト 大	1セット	携 帯 無 線 機 (//)	18台
エ ア ー テ ン ト 小	1セット	自 動 体 外 式 除 細 動 機 (AED)	4台
イ ー ジ ー ア ッ プ ・ テ ン ト	22張	N B C 災 害 除 染 セ ッ ト	1セット
デ ジ タ ル 個 人 線 量 計	42個	非 常 用 炊 き 出 し 釜	24台
防 護 服 セ ッ ト	42セット	空 間 線 量 率 測 定 用 サ ー ベ イ ー	1台
災 害 救 護 用 パ ソ コ ン	1台	災 害 救 護 用 通 信 機 器 (Wifi)	1機

(イ) 救援物資の備蓄状況

品 目	年度当初	納 入	配 分	年度末備蓄
毛 布(枚)	2,120	31	131	2020
タオルケットセット(組)	465	0	0	465
バ ス タ オ ル(枚)	626	277	113	790
緊 急 セ ッ ト(個)	489	0	66	423
安 眠 セ ッ ト(組)	450	0	61	389
ブ ル ー シ ー ト(枚)	245	0	37	208
非 常 食(食)	1,668	0	225	1443



災 害 救 護 用 車 両

(6) 災害見舞金・見舞品の贈呈

平成30年度は、火災等により罹災された44世帯に対し、次のとおり救援品及び見舞金・弔慰金を贈呈しました。



毛布・安眠セット



緊急セット

平成30年度に提供した救援物資・見舞金等

市郡名	世帯数	毛布	タオル ケット セット	バス タオル	緊急 セット	安眠 セット	ブルー シート	見舞金等 (円)
佐賀市	3	14	0	14	9	0	0	10,000
唐津市	6	14	0	14	6	0	0	20,000
鳥栖市	3	4	0	4	3	0	0	10,000
多久市	0	0	0	0	0	0	0	0
伊万里市	2	4	0	4	2	0	0	20,000
武雄市	6	19	0	19	7	0	0	40,000
鹿島市	0	0	0	0	0	0	0	0
小城市	2	10	0	10	3	0	0	20,000
嬉野市	1	1	0	1	1	0	0	10,000
神埼市	4	9	0	9	5	0	0	20,000
神埼郡	0	0	0	0	0	0	0	0
三養基郡	9	38	0	20	7	0	0	50,000
西松浦郡	1	2	0	2	1	0	0	10,000
杵島郡	4	9	0	9	3	0	0	40,000
東松浦郡	2	5	0	5	2	0	0	20,000
藤津郡	1	2	0	2	1	0	0	10,000
計	44	131	0	113	50	0	0	280,000

(7) 国内義援金

平成30年度に国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、県民の皆様から次のとおり義援金が寄託されたので、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に届けられました。

義 援 金 名	件 数	金 額 (円)
東日本大震災義援金	57	1,324,560
平成28年熊本地震義援金	116	2,278,157
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	135	1,949,904
平成30年大阪府北部地震災害義援金	25	163,574
平成30年米原市竜巻災害義援金	2	5,113
平成30年7月豪雨災害義援金	519	32,423,683
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	183	11,084,355
合 計	1,037	49,229,346

(8) 臨時救護

さが桜マラソンや有田陶器市など公共性が高く、多人数が参加するスポーツ大会やイベント等において、主催者側と協働し次のとおり救護班(員)を派遣しました。



県内一周駅伝救護

救護班(員)派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数(医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
12回	25日	49人	42人

3 赤十字の講習事業の普及

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地で人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

(1) 救急法

心肺蘇生とAEDの使い方、日常生活における事故防止、急病の手当、出血や骨折などのけが手当についての講習会を、救急法奉仕団の協力を得ながら、普及に努めました。

(受講者数 4, 297人)



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習	17回	368人	368人	368人
救急員養成講習	12回	238人	238人	236人
資格継続研修	1回	6人	6人	
短期講習	81回	3,685人		

(2) 水上安全法

水上安全奉仕団の協力を得ながら、水の事故から尊い生命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当、また着衣泳の講習会を開催し、その普及に努めました。(受講者数 1, 714人)



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員Ⅰ養成講習	1回	12人	12人	10人
短期講習	20回	1,702人		

(3) 健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向け役立つ講習会を開催し、その普及に努めました。(受講者数 123人)



健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
指導員養成講習	1回	4人	3人	2人
支援員養成講習	2回	26人	26人	26人
災害時高齢者生活支援講習	1回	14人		
短期講習	4回	79人		

(4) 幼児安全法

子どもを大切に育てるために、乳・幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気と対応について、講習会を開催し、幼児安全法奉仕団の協力を得ながら普及に努めました。(受講者数 754人)



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	5回	75人	75人	75人
短期講習	32回	678人		
資格継続研修	1回	1人	1人	

4 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。



高校生メンバーによる海外たすけあい街頭募金活動

（１）青少年赤十字加盟校の構成

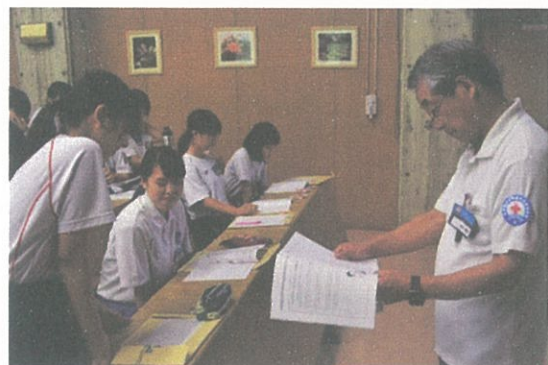
ア 登録状況

（平成31年3月31日現在）

校 種	加 盟 校 数	メ ン バ ー 数	指 導 者 数
幼稚園・保育園	5	672	54
小 学 校	126	28,282	1,434
中 学 校	82	21,158	1,240
高 等 学 校	36	8,842	377
特別支援学校	2	201	145
合 計	251校（園）	59,155	3,250



赤十字救急法の体験（トレセン小学生の部）



ワークショップ（トレセン高校生の部）

イ 青少年赤十字加盟校

(平成31年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 ちえんかん保育園 本庄幼稚園 鍋島幼稚園 春日、新栄、思斉 中川副、大詫間、 南川副、西川副 東与賀、久保泉 佐大附属、富士 若楠、諸富北 北山東部、本庄 巨勢、日新、金立 諸富南、三瀬、 高木瀬、西与賀 嘉瀬、松梅、勸興	佐大附属、城南、昭栄 城東、金泉、諸富、富士 三瀬、大和、川副、城北 東与賀、佐賀清和、鍋島 松梅、思斉、弘学館	佐賀東、佐賀工業 龍谷、北陵、佐賀北 佐賀女子、佐賀学園 佐賀商業、高志館 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、佐賀星 生学園、盲学校	61
唐 津 市	大良、平原、成和 湊、鏡山、打上 馬渡、呼子、田野 外町、長松、久里 切木、大志、簗木 鬼塚、佐志、玉島 竹木場、北波多 浜崎、西唐津、 東唐津、相知、 納所、入野、小川 すみれ幼	第一、鏡、鬼塚、 佐志、相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川 高峰、海青、第五、厳木 浜玉、湊、唐津東	唐津東、唐津南、 唐津西、厳木	49
鳥 栖 市	基里、田代、若葉 弥生が丘、麓 鳥栖北、旭、鳥栖	基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠	鳥栖、鳥栖商	15
多 久 市	西溪、中央、東部	西溪、中央、東部	多久	7
伊 万 里 市	大坪、黒川、滝野 松浦、波多津、 立花、山代東、 牧島、山代西、 南波多、二里、 伊万里、大川内、 大川	青嶺、山代、国見、 啓成、東陵、滝野、 伊万里、南波多	伊万里商業、敬徳	25
武 雄 市	北方、西川登、朝 日、若木、山内東	山内、武雄、北方	武雄	9
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、 能古見、明倫、 北鹿島	東部、西部	鹿島実業、鹿島	10
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡 晴田、砥川、牛津	小城、牛津、芦刈、三日 月	牛津	13

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
	三日月、三里			
嬉 野 市	吉田、大野原 大草野 5 轟、久間	吉田、大野原、嬉野 3	嬉野 1	9
神 埼 市	神埼、脊振、 西郷、仁比山 千代田西部、 7 千代田中部 千代田東部	神埼、千代田、脊振 3	神埼、神埼清明 2	12
三養基郡	北茂安、三根西 三根東、中原、 7 上峰、若基、基山	三根、上峰、北茂安、 中原、基山 5	三養基、中原特別支援 2	14
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡	玄海みらい 1	玄海みらい 1	唐津青翔 1	3
西松浦郡	有田中部 1	有田、西有田 2	0	3
杵 島 郡	六角、白石、有明 東、大町ひじり学 5 園、江北	白石、福富、江北、有明 5 大町ひじり学園	白石、佐賀農業、 杵島商業 3	13
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 5 小学校 126	中学校 82	特別支援 2 高校 36	251

(小・中・高校のＪＲＣ加盟校は、全体の約８０％で全国平均の約３４％を上回っています。)

ウ 青少年赤十字登録式

佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団員や佐賀県青年赤十字奉仕団が出席し、１５校（１園）で登録式が開催され、赤十字の歴史や考え、赤十字の活動、青少年赤十字の取り組み方などについて講話を行いました。

(２) 活動状況

ア 国際交流事業

(ア) 海外派遣事業（派遣国：ベトナム社会主義共和国）

青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」の一環として、毎年実施している九州ブロック海外派遣事業は、今年度は鹿児島県支部の担当により、８月１７日から２３日まで、ベトナム社会主義共和国（ハノイ、ハロンなど）に青少年赤十字メンバー、指導者など２９名を派遣しました。

ベトナム赤十字社への表敬訪問、現地ＪＲＣメンバーとの交流や日本赤十字社が行っている支援事業等の視察・体験を行いました。

(本県支部からの参加者)

- ・指導者 徳渕 絵里（佐賀女子高等学校 教諭）
- ・メンバー 吉富 美菜子（佐賀県立白石高等学校 2年）
内橋 優斗（佐賀県立致遠館高等学校 2年）



ベトナム赤十字メンバーと歓迎レセプション



マングローブ植樹体験

イ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター（宿泊訓練）の実施

小・中・高等学校において、青少年赤十字活動をはじめ、学校生活でのリーダーを養成するため、リーダーシップ・トレーニングセンターを実施しました。

小学生、中学生、高校生とも、2泊3日の日程でボランティア活動、フィールドワーク、救急法講習、ワークショップなどの体験学習を行いました。



キャンドルサービス

校 種	期 間 (2泊3日)	参加 者数	指導 者数	参 加 校 名
小学校の部	8月2日(木) 〃 8月4日(土)	43人	14人	中川副小、附属小、佐志小、 鏡山小、西唐津小、小川小(6校)
高等学校の部	8月5日(日) 〃 8月7日(火)	24人	14人	佐賀女子高、唐津東高、白石高、多久高、 佐賀商業高、致遠館高(6校)

中学校の部	8月8日(水) 8月10日(金)	86人	66人	香楠中、三田川中、三根中、富士中、有明中、吉田中、東原摩舎中央校、鍋島中、附属中、神埼中、川副中、三日月中、城北中、白石中、山代中、第五中、有田中、中原中、浜玉中、鳥栖中、海青中、南波多郷学館、北茂安中、東陵中、東原摩舎東部校、鬼塚中、千代田中、田代中、基山中(29校)
-------	---------------------	-----	-----	---



レクリエーションと仲間づくり



フィールドワーク

ウ 防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」

9月8日(土)、武雄市立御船が丘小学校5年生PTA親子ふれあい活動で本教材の中の「災害時シミュレーション」を体験してもらいました。これは、災害を想定した模擬的な体験を行うもので、避難所に持って行くものをスーツケースの大きさに合わせて所持品を選びます。



選んだもの、選ばなかったものに理由付けを考え、人によって大切なものが違うことを理解し、本当に必要なものは何かを学びました。

エ 幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさい まちがいさがし はっけん」

12月12日(水)、博愛の里こども園の年長組「にじ組」で防災学習を実施しました。本学習では、いろいろな自然災害について知り、その中から地震について「きけん はっけんシート」を活用し、地震から自分の身を守る行動を考え、身を守るための基礎的な知識や判断力を身



につけることを目標にしました。

オ 「博愛フェスタ2018」

12月2日から12月16日まで、佐賀市川副町の「佐野常民記念館」で開催された「博愛フェスタ2018」に、地元川副町の大詫間小学校と西与賀小学校、附属中学校、県立致遠館高等学校のJRCメンバー代表が参加し、青少年赤十字加盟校としての活動を発表しました。



カ 指導者・メンバー育成のための講習会等

(ア) 青少年赤十字トレセン指導者養成講習会（本社）

期日・場所 5月25日～5月27日
「国立オリンピック記念センター」
（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

参加者 久浦 修児（唐津市立西唐津小学校教諭）

(イ) 全国青少年赤十字研究会

期日・場所 1月9日～10日
「日赤本社」（東京都港区芝大門1-1-3）
参加者 合瀬 一幸 指導主事（佐賀県教育庁学校教育課）
國平 剛司 指導主事（東部教育事務所）

(ウ) 青少年赤十字スタディ・センター

期日・場所 3月22日～26日
「東照館」（山梨県南都留郡山中湖村平野210）
参加者 塚原 愛華（佐賀女子高等学校 2年）
池田 明日香（佐賀県立致遠館高等学校 1年）
指導スタッフ 松尾 一志（佐賀県立白石高等学校 教諭）

(エ) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（宮崎県支部主催）

期日・場所 8月21日～8月23日開催予定
※台風接近のため中止
参加者 荒巻 亘（佐賀女子高等学校教諭）

(オ) 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

期日・場所 6月15日～16日

「ホテル龍登園」(佐賀市大和町大字梅野120)

参加者数 12名(修了者12名(1名は1日目のみ参加)

／中堅教諭等資質向上研「選択研修」参加者6名)

(カ) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第2回理事研究会

期日・場所 6月15日

「ホテル龍登園」(佐賀市大和町大字梅野120)

※指導者育成研修会と同会場にて同日開催。

参加者数 9名



JRC教育的手法を用いたアイデアプラン①



JRC教育的手法を用いたアイデアプラン②

(キ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

期日・場所 10月25日

「佐賀市文化会館」(佐賀市日の出1-21-10)

参加者数 147名



講演「学校教育と青少年赤十字について」



グループワーク「アイデアプラン」

キ 指導者協議会関係会議

(ア) 本社・九州ブロック主催

種 別	期 間	開催地	参 加 者
全国指導者協議会総会	6月28日～ 6月29日 (2日間)	東京都 (日赤本社)	嘉村 和久 副会長
ブロック指導者協議会長 支部担当者合同会議	11月28日～ 11月29日 (2日間)	宮崎県 (宮崎県支部)	佐賀県支部職員 1名

(イ) 支部主催

種 別	期 日	会 場
県指導者協議会役員会 (第1回)	5月10日	メートプラザ佐賀 (32人出席)
県指導者協議会総会	5月10日	〃 (91人出席)
県指導者協議会役員会 (第2回)	2月8日	日赤佐賀県支部 (27人出席)

ク 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集 (支部扱い分)

義 援 金 ・ 救 援 金 名	件数 (校)	金 額 (円)
東日本大震災義援金	5	82,719
熊本地震義援金	10	183,163
平成29年九州北部大雨災害義援金	6	155,059
「NHK海外たすけあい」寄附	7	70,125
平成30年大阪府北部地震災害義援金	5	46,211
平成30年米原市竜巻災害義援金	0	0
平成30年7月豪雨災害義援金	43	780,949
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	25	382,513
中東人道危機救援金	1	11,700
バングラデシュ南部避難民救援金	1	2,555
2018年ロンボク島地震救援金	0	0
合 計	103	1,714,994

ケ 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

(ア) メンバー表彰 11名

氏 名	学 校 名	氏 名	学 校 名
吉田 侑生	唐津市立佐志小学校	住吉 愛唯	唐津市立佐志小学校
堀川 花菜	唐津市立佐志小学校	村川 まなか	唐津市立佐志小学校
武廣 栄	吉野ヶ里町立脊振中学校	中村 みのり	吉野ヶ里町立脊振中学校
石田 優斗	県立高志館高等学校	古賀 匠真	県立白石高等学校
石隈 紫月	県立白石高等学校	高取 玲奈	県立牛津高等学校
内橋 優倫奈	県立多久高等学校		

(イ) グループ表彰 10団体

グループ名	グループ名
唐津市立相知小学校ボランティア委員会	佐賀市立金立小学校6年1組一同
佐賀市立金立小学校「桜マラソン応援隊」実行委員会	神埼市立千代田中学校平成29年度千代田中学校生徒会
鹿島市立西部中学校生徒会	唐津市立相知中学校生徒会
吉野ヶ里町立脊振中学校生徒会	武雄市立武雄中学校生徒会
佐賀女子高等学校	佐賀県立白石高等学校JRC部

コ 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状贈呈

10月25日に佐賀市文化会館で開催しました、青少年赤十字加盟校長等研修会開催において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

(ア) 10年以上継続校(園) 5校

(イ) 5年～9年継続校(園) 32校

サ 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「糸杉」贈呈

青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した糸杉の贈呈を行いました。

「糸杉」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成24年度より贈呈を行っています。

○「糸杉」贈呈校（加盟年数）

- | | |
|--------------|----------|
| ①唐津市立久里小学校 | （ 7 年） |
| ②伊万里市立青嶺中学校 | （ 1 9 年） |
| ③白石町立福富中学校 | （ 1 9 年） |
| ④江北町立江北中学校 | （ 1 9 年） |
| ⑤佐賀県立致遠館高等学校 | （ 6 年） |



シ その他の活動

青少年赤十字加盟の幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校では、独自の計画により、校内外において様々な自主的活動を展開しております。

特に、高校メンバー協議会は、月 1 回佐賀県支部等において定例会を開催し、健康・安全、奉仕、国際理解・親善などの活動を実施しています。



防災DAY（災害食作り体験）



国際理解・親善の会



血液センター見学



東日本大震災復興支援活動

5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字奉仕団は、人道博愛の赤十字精神に賛同し、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された奉仕者の組織です。

佐賀県支部では、地域赤十字奉仕団のほか青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団が組織され、様々な活動を展開しています。また、奉仕団同士が、より主体的・積極的に活動できるよう連携強化のため「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」を設置しています。

(1) 地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、県内34団、登録団員5,247人の組織で、日常における奉仕活動のほか、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。平成30年度は次のとおり奉仕活動が実施されました。

ア 一品供出金運動

火災等不慮の災害に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として、毎年団員一人当たり20円が拠出されています。

平成30年度の拠出金総額は140,000円になりました。

この資金で、次のとおり見舞金及び救援金が贈呈されました。

* 火災等見舞金（県内） 28世帯……………140,000円

イ 奉仕活動

県内の自主防災組織や自治体の訓練等に自主的に参加し、地域における災害弱者への取り組みや炊き出し等の現地訓練を行いました。

また、下記の活動を実施しました。



災害食作り

(ア) 献血推進

日時	実施場所	協力地域	協力者数（人）
9月11日	相知市民センター	相知町	1

(イ) 赤十字救急法講習会の開催

日付	主催者	会場	受講者数（人）
3月6日	武雄市山内町地域婦人会	武雄市立山内公民館	20

3月10日	有田町婦人会	有田西公民館	20
合計	2ヶ所		40

(ウ) 赤十字幼児安全法講習会の開催

日付	主催者	会 場	受講者数(人)
10月22日	吉野ヶ里町女性会	三田川児童館	8
合計	1ヶ所		8

(エ) 赤十字防災セミナーの開催

日付	主催者	会 場	受講者数(人)
5月12日	神崎市地域婦人連絡協議会	神崎市中央公民館	60
9月7日	九州トリム体操協会	高木瀬公民館	12
9月22日	若木町地域婦人会	若木公民館	60
12月22日	江北町婦人会	白木パノラマ公園キャンプ場	22
1月16日	武雄町婦人会	武雄市文化会館和室	30
1月26日	小城市地域婦人会	小城保健福祉センター「桜楽館」	70
2月24日	牛津町子ども祭り	小城市牛津公民館	400
3月9日	相知町婦人会	尾部田公民館	20
3月24日	東川登町地域婦人会	東川登公民館	80
合計	9ヶ所		754

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「HIV/AIDS感染予防啓発」、「JRC活動支援」、「献血推進」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

ア 結成状況

(平成31年3月31日現在)

団 名	団員数 (人)	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	32	林 祐介



サマー献血キャンペーン呼びかけ



団内防災研修 (エアテント設営)



合同災害救護訓練への運営スタッフ参加



地域イベントへの参加・指導

(3) 特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。

本県には9つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

ア 結成状況

(平成31年3月31日現在)

団 名	団員数 (人)	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	33	瀬戸 弘美

佐賀県赤十字水上安全奉仕団	25	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	13	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	62	夏秋 正倫
佐賀県赤十字看護奉仕団	20	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	25	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	18	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字しゃちの会奉仕団	5	矢ヶ部 登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	24	下村 京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	5	田中 正照

イ 平成30年度における奉仕団活動

(ア) 青少年赤十字トレーニング・センター援助(8/2～10)

青年10、JRC賛助4、看護4……………18人

(イ) ワールド・ファースト・エイドデー(9/1)

地域65、青年6、救急法・水上安全・幼児安全法14、看護2、ほっと7、
JRC賛助3、特殊輸送4、無線2、……………103人

(ウ) 佐賀市総合防災訓練(11/11) 青奉1、救急法3……………4人

(エ) 航空機事故総合訓練(10/28) 青年1、輸送1……………2人

(オ) 海外たすけあい募金活動(12/15)

地域38、青年6、救急法1、水上安全法2、幼児安全法1、輸送2、看護2、
ほっと5、JRC賛助5……………62人

(カ) 救急法、水上安全法、幼児安全法、康生活支援講習

防災セミナーの普及・指導……………230回

(キ) 臨時救護……………18日

(ク) 東日本大震災義援金街頭募金活動(3/9)

地域2、青年4、特輸5、ほっと5、賛助3、救急1、幼児2
……………22人

(ケ) 介護施設等におけるケア(奉仕団「ほっと」)……………110回

(コ) 支部内作業協力(しゃちの会)……………毎月1回



佐賀県赤十字無線奉仕団



赤十字飛行隊佐賀支隊



赤十字特殊輸送奉仕団



赤十字奉仕団「ほっと」

(4) 活動状況

ア 本社主催会議・研修会等への出席

(ア) 赤十字奉仕団中央委員会

- ・ 日 時 平成30年5月31日～6月1日
- ・ 場 所 日赤本社（東京都）
- ・ 参加者 三 苫 紀美子 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長

(イ) 赤十字ボランティア・リーダー研修会（地域・青年・特殊奉仕団対象）

- ・ 日 時 平成30年8月25日～27日
- ・ 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）
- ・ 参加者 佐藤 洋 （佐賀県赤十字水上安全奉仕団委員長）
石丸 紗矢佳（佐賀県青年赤十字奉仕団副委員長）
- ・ 指導スタッフ 松崎 かめ代（佐賀県赤十字救急法奉仕団）

(ウ) 赤十字奉仕団支部指導講師研修会

- ・ 日 時 平成31年2月5日～7日
- ・ 場 所 日赤本社（東京都）
- ・ 参加者 夏秋 正倫 （佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）
牛草 達雄 （佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団委員長）

イ ブロック主催会議への出席

(ア) 第6ブロック 青年赤十字奉仕団協議会

- ・ 日 時 平成30年6月23日～24日
- ・ 場 所 日本赤十字社宮崎県支部
- ・ 参加者 林 祐介 (佐賀県青年赤十字奉仕団委員長)
石丸 紗矢佳 (佐賀県青年赤十字奉仕団副委員長)

(イ) 第6ブロック 奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

- ・ 日 時 平成31年1月29日～30日
- ・ 場 所 日本赤十字社大分県支部
- ・ 参加者 三 苦 紀美子 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長

ウ 支部主催研修会への出席

(ア) 第5回赤十字奉仕団研修交流会

- ・ 日 時 平成31年2月2日
- ・ 場 所 ホテルマリターレ創世佐賀
- ・ 参加者 地域5人、青年6人、救急4人、水上3人、幼児5人、ほっと3人、
飛行2人、看護3人、無線1人、輸送4人、JRC賛助4人 40名

(イ) 第5回赤十字奉仕団研修交流会実行委員会

- ・ 日 時 平成30年12月9日(第1回)
平成31年1月26日(第2回)
- ・ 場 所 日本赤十字社佐賀県支部
- ・ 実行委員 地域1人、青年1人、救急1人、水上1人、幼児1人、看護1人、
輸送1人、JRC賛助1人、奉仕団指導講師3人 11名

エ その他

(ア) 佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議

- ・ 日 時 平成30年3月17日(総会)
平成30年9月9日(臨時総会)
平成31年2月2日(役員会)

(イ) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

- ・ 委 嘱 者 牛草 達雄 (佐賀県赤十字救急法奉仕団/佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団)
松崎 かめ代 (佐賀県赤十字救急法奉仕団/佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団)
鈴木 容子 (佐賀県赤十字看護奉仕団/佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団)
夏秋 正倫 (佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団)

(5) 奉仕者功勞表彰

永年赤十字活動に尽力され、特別の功績のあった奉仕者の方々をを表彰しました。

ア 日本赤十字社表彰

(人)

奉仕団名	金色有 功章 (20年 以上)	銀色有 功章 (15年 以上)	支部長 感謝状 金枠 (10年 以上)	支部長 感謝状 銀枠 (5年 以上)	計
地 域 赤 十 字 奉 仕 団	3				3
佐 賀 県 赤 十 字 青 年 奉 仕 団				3	3
佐 賀 県 赤 十 字 救 急 法 奉 仕 団	5		20	4	29
佐 賀 県 赤 十 字 水 上 安 全 法 奉 仕 団					
佐 賀 県 赤 十 字 幼 児 安 全 法 奉 仕 団		2		2	4
佐 賀 県 青 少 年 赤 十 字 賛 助 奉 仕 団					
佐 賀 県 赤 十 字 看 護 奉 仕 団					
佐 賀 県 赤 十 字 無 線 奉 仕 団					
佐 賀 県 赤 十 字 特 殊 輸 送 奉 仕 団					
佐 賀 県 赤 十 字 し ゃ ち の 会 奉 仕 団					
佐 賀 県 赤 十 字 奉 仕 団 「 ほ っ と 」		4			4
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	1				1
計	9	6	20	9	44

イ 佐賀県知事表彰

(ア) 種 別 福祉・保健衛生功勞

(イ) 受賞者 坂田 艶子 (佐賀県地域赤十字奉仕団 副委員長)

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

(1) 平成30年全国赤十字大会

平成30年全国赤十字大会が、5月16日（水）明治神宮会館（東京都渋谷区）において、名誉総裁皇后陛下、各名誉副総裁宮妃殿下ご臨席のもと、全国から会員や奉仕団員等の赤十字関係者約1,900人が参列して開催されました。

大会では、名誉総裁皇后陛下から赤十字事業の推進に功績のあった代表13人に有功章、2人に社長表彰が贈られました。

式典では、近衛社長のあいさつ（大塚副社長代読）をはじめ、昨年「フローレンス・ナイチンゲール記章」を授与された看護師の伊藤明子さんと、東京都青少年赤十字のメンバーである中学生、小林正英さんから報告がありました。

佐賀県からは、本県選出理事をはじめ特別社員、地区・分区関係者、奉仕団員及び支部職員の計17人が出席しました。

また、今大会では、皇后陛下は名誉総裁として最後の式典を去る間際、大会出席者へ丁寧なごあいさつをされました。そしておもむろに後ろを振り返り、皇太子妃殿下を促すように手を差し出されました。

雅子様が驚きながらも美智子様に歩み寄ると、雅子様の腕にそっと手を添えたあと、美智子様は会場全体に笑顔をお向けになられ、雅子様もその意をくみ、共に笑顔でごあいさつをされました。

美智子様は、盛大な拍手に包まれ、ゆっくりと壇上を後にされ、会場中の誰もが胸の熱くなった瞬間。平成最後となる全国赤十字大会を象徴する一幕でした。



(2) 平成30年度九州八県赤十字大会

毎年、九州八県支部の持ち回りで開催している九州八県赤十字大会が、11月8日（木）熊本県熊本市の熊本県立劇場において開催されました。



大会には、日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃殿下がご臨席され、受章（彰）者 199人を含む九州各県から赤十字関係者1,378人が参列しました。

佐賀県関係受章（彰）者・法人は、金色有功章個人8人、同法人4社、銀色有功章個人12人、同法人11社、日本赤十字社感謝状個人4人、同法人6社であった。佐賀県からは、特別社員、地区・分区職員、奉仕団関係者及び支部職員の計58人が出席しました。

□ 受章（彰）者御芳名 （敬称略、順不同）

ア 日本赤十字社感謝状（金色有功章後の社資功労）

（個人）

杉 本 励	(佐賀市)	高 取 義 昭	(佐賀市)
船 津 恵 子	(神埼市)	井 口 克 代	(福岡県福岡市)

（法人）

松尾建設（株）	(佐賀市)	(株) 佐賀銀行	(佐賀市)
大西工業（株）	(唐津市)	久光製薬（株）	(鳥栖市)
(株) 神近建設	(嬉野市)	(株) 香蘭社	(西松浦郡有田町)

イ 金色有功章（社資功労・役職功労）

（個人・社資功労）

吉 次 法 子 (佐賀市)

（個人・役職功労）

秀 島 敏 行	(佐賀市)	重 美智子	(唐津市)
松 本 茂 幸	(神埼市)	佐 藤 薫	(三養基郡基山町)
岸 本 英 雄	(東松浦郡玄海町)	伊 東 哲 也	(杵島郡白石町)
新 貝 雄 二	(藤津郡太良町)		

（法人）

全国共済農業協同組合連合会佐賀県本部	(佐賀市)		
宗教法人 佐嘉神社	(佐賀市)	(株) 陣内工務店	(神埼郡吉野ヶ里町)
深川製磁（株）	(西松浦郡有田町)		

ウ 銀色有功章（社資功労・役職功労）

（個人・社資功労）

田 中 政 人	(佐賀市)	犬 塚 博 文	(佐賀市)
大 木 傑	(佐賀市)	神 近 利 久	(嬉野市)
原 武 弘	(三養基郡上峰町)		

（個人・役職功労）

尾 形 洋一郎	(伊万里市)	平 石 俊 英	(小城市)
吉 富 和 樹	(三養基郡上峰町)	原 進 二	(三養基郡上峰町)
吉 原 弘 幸	(三養基郡上峰町)	中 山 英 樹	(東松浦郡玄海町)
田 中 晴 美	(杵島郡白石町)		

(法人)

山口クリニック

(佐賀市)

(有) 新日東工業

(唐津市)

中尾工業(株)

(鳥栖市)

医療法人啓心会 啓心会病院(鳥栖市)

(株) 古賀建設

(伊万里市)

医療法人内山産婦人科医院(伊万里市)

(株) サガテック

(鹿島市)

(株) 徳島建設

(神埼郡吉野ヶ里町)

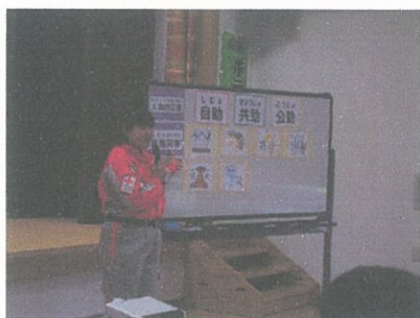
佐賀県立杵島商業高等学校(杵島郡大町町)

(有) 白石罐詰工場(杵島郡白石町)

(株) 共栄ビルパートナーズ(福岡県福岡市)

(3) 赤十字運動イベント

赤十字月間のイベントとして、一年間を通じて佐賀県内で赤十字運動イベント「防災セミナー」を開催しました。県内の10市地区・10町分区の共催により9会場で662人の参加をいただき、赤十字活動を理解していただくイベントになりました。



日 時	会 場	対象の 市町	受講者数
5月11日(金) 13:30~15:30	唐津市文化体育館	唐津市	100
5月12日(土) 10:30~11:30	有田町福祉保健センター	伊万里市 有田町	76
5月24日(木) 10:00~12:00	メートプラザ佐賀	佐賀市	135
5月26日(土) 10:00~12:00	小城市「桜楽館」	多久市 小城市	97
6月24日(日) 10:00~12:00	白岩体育館	武雄市 江北町 白石町 大町町	69
7月14日(土) 10:00~12:00	鹿島市林業体育館	鹿島市 嬉野市 太良町	73
10月4日(木) 14:00~16:00	吉野ヶ里町東脊振健康福祉センター 「きらら館」	神崎市 吉野ヶ里町	34
11月7日(水) 9:30~10:30	玄海町保育所「あおば園」	玄海町	40
11月16日 (金) 10:00~11:30	みやき町コミュニティーセンター 「こすもす館」	鳥栖市 基山町 上峰町 みやき町	38
合計	9会場		662

(4) ワールド・ファースト・エイド・デー

国際赤十字・赤新月社連盟では、赤十字が目指す「健康増進・疾病予防・苦痛の軽減」の具体的な行動の一環として、2002年に「World First Aid Day」をスタートし、毎年9月の第2土曜日を中心に世界中でFirst Aid(救急法)についてのイベントを実施しています。

当県支部は今回、赤十字佐賀県支部奉仕団員と赤十字防災ボランティアを対象に、「赤十字」と「赤十字講習」をご理解いただく機会として、9月1日(土)にメートプラザさがを会場に開催し、140名の方にご参加いただきました。

第1部では、ボランティアである支部指導講師の主導で、「赤十字ボランティア基礎講習」を行い、赤十字の理解とボランティア同士の繋がりを深め、第2部では、ボランティアの講習指導員による「一次救命処置」を行い、心肺蘇生とAEDを使った除細動の方法を習得していただきました。

(5) 博愛フェスタ2018

12月2日から12月16日の期間、佐野常民記念館において、博愛精神の普及と啓発を目的とした川副町、佐賀県支部、佐野常民顕彰会の共催による「博愛フェスタ2018」が開催されました。

このフェスタの中心事業として行なわれた「全国博愛絵画展」には、全国のJRC加盟校等120の小・

中学校や4つの絵画教室から応募のあった1,147点の中から9

7作品に対し、各賞が授与され、博愛大賞には高橋優人さん(鹿児島県指宿市立山川小学校1年生)の『うみがめとおよいだよ』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、記念館に展示されました。

また、期間中は加盟校4校によるJRC活動発表会や親子でしめ縄づくり等の多数のイベントが行われたほか、日赤佐賀県支部は災害食作りを実施しました。



全国博愛絵画展受賞者

(6) 佐野祭

佐野常民初代社長の116回忌にあたる12月7日の命日に、川副町早津江の佐野常民生誕地において、佐野祭(例年祭)が執り行われました。

この慰霊祭には、赤十字有功会や佐野常民顕彰会並びに赤十字施設幹部職員など赤十字関係者と地元有志など約60人が参拝しました。

今年も、地元の佐賀市立中川副小学校の児童も特別に参加し、青少年赤十字



誓いの唱和と、佐野先生を讃える歌を全員で合唱しました。

(7) 防災・減災プロジェクト～私たちは忘れない～

東日本大震災から8年が経過し、今年も「私たちは、忘れない」キャンペーンを展開しました。

主な内容は、本社作成資材を活用した広報活動の実施（ポスター、パネル他）、東日本大震災義援金街頭募金の実施、公式Facebookページによる広報など、広く県民に対し広報活動を実施しました。



東日本大震災街頭募金の様子

(8) その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介並びに周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 支部発行の機関紙「赤十字さが」78号（春号）を21,000部、79号（秋号）を21,000部作成し、地区・分区を通じ県内全世帯に回覧するとともに、有功章社員はじめ赤十字関係者に配布しました。また、本社が毎月発行している「赤十字NEWS（新聞）」2,000部を赤十字関係者などに配布しました。

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ340,000枚を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。

イ 小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ 赤十字救急法等各種講習会、イベント等を支部ホームページに掲載したほか、新聞、テレビなどの報道機関に対して内容や日程等を詳しく記載したリリースを送付し、広報の依頼を行いました。

エ 地区分区並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部に常備している事業紹介用パネルを積極的に貸出し、活用してもらいました。

オ 全国でも数少ない佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センター『3施設合同フェイスブック』を活用し、ソーシャルネットワークによる若年層へのタイムリーな情報発信を行いました。（年間投稿数253本の記事を掲載）



『赤十字さが』



赤十字NEWS(新聞)



5月運動月間広報チラシ



3施設合同フェイスブック

カ 3施設合同広報委員会

支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成するこの広報委員会を毎月開催し、「もっとクロス！運動」を具体化するための企画や運営を一体的にすすめています。

特に平成30年度は、リクルートに関するイベントに各施設から職員を派遣し、若年層への赤十字事業の普及を積極的に行いました。

また、4回目の開催となった赤十字職員を対象とした広報勉強会では、広報スキルの向上と共有を図りました。



3施設合同広報委員会メンバー



広報研修会の様子

キ 赤十字運動月間にかかる広報

5月の赤十字運動月間イベントとして、地域のニーズが高まっている「赤十字防災セミナー」を県内9箇所で開催し、662名の県民に対して講習普及を行いました。また、佐賀県庁において「赤十字レッドライトアップ企画」「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」などを実施し、赤十字の活動を県民の皆様にも周知する機会となりました。



赤十字防災セミナーの様子



赤十字レッドライトアップ（佐賀県庁）



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



パネル展示（佐賀県庁）

7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

(1) 会 員 数

平成29年度と平成30年度の会（社）員（個人・法人）数は、次のとおりです。

【個 人】

区 分		平成29年度	平成30年度	増 減
会 (社) 員	金色有功章	2 5 7	2 5 8	1
	銀色有功章	3 7 4	3 7 1	△ 3
	特 別 社 員	4, 0 9 5	4, 0 9 2	△ 3
	会 員	1, 5 3 0	1, 1 9 4	△ 3 3 6
	協 力 会 員	2 2 6, 0 6 3	2 2 4, 9 8 9	△ 1, 0 7 4
計		2 3 2, 3 1 9	2 3 0, 9 0 4	△ 1, 4 1 5

【法 人】

区 分		平成29年度	平成30年度	増 減
会 (社) 員	金色有功章	2 6 1	2 6 5	4
	銀色有功章	4 8 8	4 9 2	4
	特 別 社 員	1, 3 6 2	1, 3 6 9	7
計		2, 1 1 1	2, 1 2 6	1 5

(2) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

平成30年7月6日（金）、日赤県支部において地区・分区事務長会議の開催を計画していましたが、豪雨災害対応のため急遽中止となりました。

そのため、平成30年度第1回支部評議員会で協議された、平成29年度業務報告、一般会計歳入歳出決算、平成30年度社資目標額などの報告事項については、各地区分区を直接訪問し個別に説明を行いました。

また、平成31年2月26日（火）、日赤県支部において2回目の事務長会議を開催し、平成30年度の中間業務報告、平成31年度事業計画、平成31年度一般会計歳入歳出予算について説明するとともに、赤十字運動イベント「防災セミナー」への協力を要請しました。



(3) 平成30年度活動資金募集実績

ア 総括表

(平成31年3月31日現在) 単位：円

区 分	平成29年度(A)	平成30年度(B)	B/A %
一 般 社 資	130,178,680	119,099,671	91.4
支部扱	27,386,364	17,413,339	63.5
一 般	26,516,364	17,123,339	64.5
使途指定	870,000	290,000	33.3
地区分区扱	102,792,316	101,686,332	98.9
法 人 社 資	13,401,557	13,864,365	103.4
支部扱	12,293,557	12,637,165	102.7
一 般	11,693,557	12,537,165	107.2
使途指定	600,000	100,000	16.6
地区分区扱	1,108,000	1,227,200	110.7
合 計	143,580,237	132,964,036	92.6
※使途指定を除く	142,110,237	132,574,036	93.2

※ 使途指定とは、唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金。

※ 平成30年度は、「2018年インドネシア・ロンボク島地震救援金（65,000円）」「2018年インドネシア・スラウェシ島地震救援金（10,000円）」を含む。

8 支部評議員会の開催

(1) 平成30年度支部評議員会文書審議 平成30年4月19日提出

第1号議案 日本赤十字社佐賀県支部支部長（指山弘養氏）の選出について

第2号議案 日本赤十字社佐賀県支部副支部長（川久保三起子氏）の選出について

第3号議案 日本赤十字社佐賀県支部監査委員（山田恭輔氏）の選出について

(2) 平成30年度第1回支部評議員会 平成30年6月7日開催（於 支部会議室）

第1号議案 平成29年度事業報告について

第2号議案 平成29年度一般会計歳入歳出決算について

第3号議案 平成29年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

第4号議案 日本赤十字社佐賀県支部副支部長の選出について

その他 平成29年度佐賀県赤十字血液センターの事業報告について

(3) 平成30年度第2回支部評議員会 平成31年2月7日開催（於 支部会議室）

第1号議案 平成31年度事業計画について

第2号議案 平成31年度一般会計歳入歳出予算について

第3号議案 平成31年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書について

第4号議案 日本赤十字社佐賀県支部代議員（中山弘志氏）の選出について

その他 平成31年度佐賀県赤十字血液センターの事業計画について



指山弘養 佐賀県支部長



平成30年度第2回評議員会

9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）

（1）総括

平成30年度は6年に1度の診療報酬・介護報酬同時改定の年度であり、団塊の世代が全て後期高齢者となる2025年を一つの節目とする「地域包括ケアシステム」の実現に向けて環境整備が進められました。4月には第7次佐賀県保健医療計画が策定され、2025年だけでなくさらにその先、後期高齢者数のピークを迎える2035年以降を見据えた計画となりました。

診療報酬改定では診療報酬本体は0.55%引上げとなったものの、全体では1.19%のマイナス改定となりました。今回の診療報酬改定では暫定調整係数の機能評価係数Ⅱへの置換えが完了したことも大きな注目点であり、機能評価係数Ⅱをなす各係数についても再整理が進められました。

また、7月には日本赤十字社（以下日赤本社）から当院の経営状況について改善の必要があるとして「重点支援病院」の指定を受けました。この重点支援病院の指定解除を喫緊の課題とし、医業収益の増加と人件費をはじめとした費用の適正化に取り組むこととしました。

そのような中、当院は紹介型の地域中核病院として、連携の強化と医療の安全と質の向上に努め、新規入院患者の確保について目標数値を上回りながら推移したことにより、入院診療収益の増加に繋げることができました。

9月には昨年度より準備を進めてきた公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審しました。平成31年2月1日付けで、機能種別「一般病院2」の承認を受けました。



病院機能評価に係る合同面接



病院機能評価認定証

（2）平成30年度の重点的取り組みに関する現況

ア 救急医療・急性期医療体制への取り組み

平成30年度も常勤救急医は3名体制であったが、引き続き救急医療・急性期

医療の体制整備の推進を図るとともに、北部医療圏全体の救急体制や「地域救命救急センター」の役割を踏まえ、病床の有効利用に努めました。

また平成31年4月から、唐津市消防本部より週2回救急隊員2名が当院へ派遣され、多重事故等の医師搬送事案が発生した時に救急医を現場へ出動させる体制である救急ワークステーションを開設するための協定が結ばれました。

救急患者の状況

年 度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	対前年度 比 (%)
患者数(人)	時間内	699	653	624	638	622	97.5 %
	時間外	7,342	7,330	6,705	16,230	15,806	97.4 %
	合計	8,041	7,983	7,329	16,868	16,428	97.4 %
	内救急 車数	時間内	699	653	624	622	97.5 %
		時間外	1,398	1,338	1,355	1,475	94.4 %
		合計	2,097	1,991	1,979	2,200	95.3 %
	内入院 数	時間内	545	529	492	471	100.8 %
		時間外	1,640	1,580	1,542	1,668	112.4 %
		合計	2,185	2,109	2,034	2,139	109.8 %

イ 医師の確保対策

歯科口腔外科は平成27年度より休診となっていましたが、北部医療圏における歯科口腔外科の提供施設の不足を補うため、平成30年4月から常勤医1名を配置することができました。

しかしながら、地域間、診療科間における医師の偏在等を背景とした医師不足はいまだ解決されておらず、当院においても少なからず診療機能に影響を受けていますが、派遣大学に対して行ってきた長期ビジョンに立った医師確保対策が功を奏し、ある程度安定感のある診療部が構成されつつあります。

また、急性期医療を展開するうえで医師の育成・確保は重要なことから、基幹型臨床研修医および協力型臨床研修医の確保に努めました。

診療部の推移	H25	H26	H27	H28	H29	H30
医 師	62	69	68	69	72	75
歯科医師	1	1	0	0	0	1
研 修 医	10	9	2	5	7	5
(基 幹 型	7	5	2	5	7	3)
	73	79	70	74	79	81

ウ 看護師の確保対策

看護師の確保対策として例年に引き続き日赤佐賀県支部の奨学金制度の活用や、県内外の看護学校に対する採用試験への応募依頼、さらに民間主催の看護師合同説明会への参加を実施した結果、16名の看護師を採用することができました。

また、新人看護師の職場適応を促進するために行っている3ヶ月の新人ローテーション研修が定着してきており、早期の離職者が少なくなっています。

また、医療の専門分化・高度化に伴い看護師にも専門性が求められるようになってきたため、認定看護師の育成にも力を注いでおり、今年度は救急看護分野を1名が取得し、現在9分野13名の認定看護師が在籍しています。

エ 小児・周産期医療体制への取り組み

平成29年度より開設した「地域連携小児救急センター」は、5つの大学病院からの医師派遣と唐津東松浦医師会および離島診療所の連携協力医による一次救急医療の提供と本院が担当する二次救急医療との連携が形づくられてきています。今後も持続可能で安定した小児救急医療体制が構築できるよう行政、医師会と協力し取り組んでいきます。

産婦人科医師については、引き続き3名体制を維持していますが、ハイリスク分娩のみならず正常分娩を地域で安心して行えるような周産期医療を確立するためには産婦人科医師の増員は不可欠であり、医師確保に向けて唐津市、医師会と協力しながら継続的に大学等関係機関に積極的な働きかけを行っています。

オ 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

平成30年度のがん地域連携パスの連携医療機関数は50施設でありましたが、がんパス運用件数は20件と減少しました。引き続き院内の医師へ個別に働きかけ、がんパス運用を推進していきます。

また、地域がん診療連携拠点病院の整備指針が見直され、多くの指定要件が変更となりました。特に人的要件で専従の医師（緩和ケアチーム、放射線治療）の確保が本院の課題であるという認識を県健康福祉部と共有しました。

カ 地域医療支援病院としての機能強化

平成30年度も「紹介患者は断らない」をモットーに診療部と情報交換を密にし、紹介患者のスムーズな受入れができるように努め、紹介率81.1%、逆紹介率59.1%と、地域医療支援病院の承認要件をクリアできました。

退院支援に関しては、PFMの導入、平成30年10月から入院時支援加算の算定を開始し、11月から各病棟に担当の社会福祉士を配置し入退院支援1の算定を開始し入退院支援体制を強化しました。

また、できる限り住み慣れた地域で安心した生活維持を目指すために佐賀県北部医療圏退院支援ルールに基づき、地域のケアマネジャーと連携し、多職種で協働し支援を行いました。

※2)

キ DPC/PDPS（診断群分類を用いた1日当たり包括支払方式）対策

コーディングの精度向上のために、医師を中心とした「DPCコーディング専門委員会」を毎月実施しており、コーディングの際に注意すべき点や疑問点などについて協議し、必要に応じて各部門へのフィードバックを行いました。

ク 災害時医療

7月に西日本を中心に起きた「平成30年7月豪雨災害」に対して、当院は7月19日から7月22日にかけて医療救護班を1班編成し広島県安芸郡坂町に派遣し救護活動を行いました。

当院では赤十字の使命に基づき、また地域災害拠点病院として、救護班を3班、DMATを2班、原子力災害拠点医療救護班を2班編成、原子力災害医療派遣チーム要員を11名養成し災害時に備え、自治体主催の救護活動等の各種訓練及び日赤佐賀県支部との合同による救護訓練等を定期的に行いました。



7月豪雨災害時の救護活動



九州八県支部合同災害救護訓練（佐賀市）

ケ 重点支援病院指定に伴う取組み

7月に日赤本社から当院の経営状況について改善を要するとして、「重点支援病院」の指定を受けました。「重点支援病院」の指定を受けた最大の要因は、直近3年の業務キャッシュフローの平均がマイナスになったこととあります。

<業務キャッシュフロー推移>

平成27年度	544,957,574円
平成28年度	-454,607,409円
平成29年度	-91,164,203円
3年間の合計	-814,038円

平成28年度は新病院建設・移転に伴う入院患者制限の影響が大きく、入院診療収益が2か月にわたり減少しました。平成28年8月の新病院移転以降の医業収益は増加傾向にありますが、平成29年度も職員の増加に伴う人件費増などの費用増加がこれを上回りました。

この重点支援病院の指定解除を喫緊の課題とし、本社病院支援課の支援のもと、11月には当院幹部職員が本社経営委員のヒアリングを受け、業務改善に向けて取り組んでいるところであります。

コ 経営健全化対策

(ア) 経営手法の確立

今年度はBSCを導入して5年目となり、BSCによる院長ヒアリングも継続的に実施し、病院幹部と各部署の意見交換を図りました。

また11月には、日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会に参加し、本年は経営対策室より一般口述演題を1題提出しました。今後も積極的な取り組みをする部署へ学会発表等を促し、意欲の向上につなげていきます。

(イ) 収入対策

入院患者の安定的な確保、積極的な施設基準の取得、DPC/PDPSに係る機能評価係数Ⅰの取得や、平均在院日数短縮に取り組み、収入確保に努めました。

特に、社会や地域の実情に応じて求められている機能である「高度・先進的な医療」、「総合的な医療」、「重症患者への対応」、「5疾病5事業への対応」等、地域への貢献が評価される機能評価係数Ⅱの数値アップについて年度を通して取り組みました。

※1) PFM

「Patient Flow Management」の略称。

予定入院患者の情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手すると同時に、病床の管理を合理的に行うことなどを目的とする病院内の仕組み。

※2) DPC/PDPS

「Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System（診断群分類に基づく1日あたり定額報酬算定制度）」の略称。

旧来の診療報酬制度では入院・外来ともに出来高報酬でありましたが、平成15年度より急性期医療に係る入院診療費についてはDPC/PDPSが導入されました。

入院診療費は包括評価部分と出来高評価部分で構成され、この包括評価部分をDPCに基づいて算定を行います。

DPCの症例ごとに標準入院日数が設定されており、また段階的に1日当たりの診療報酬が引き下げられていく制度なので、長期の入院になるほど1日当たりの診療単価が安くなります。

※3) BSC

「Balanced Score Card（バランスト・スコアカード）」の略称。

戦略マネジメントシステムの一つ。病院幹部が立てた戦略を各部署の実務

レベルまで落とし込み、全職員が戦略を共有し意識のベクトルを合わせるための仕組みのこと。

※ 4) 主な施設基準の取得

【基本診療料】

- ・ 栄養サポートチーム加算（再取得）
- ・ ハイリスク分娩管理加算
- ・ 後発医薬品使用体制加算 1
- ・ 入退院支援加算（2から1へ変更、入院時支援加算の追加）
- ・ 小児入院医療管理料 3
- ・ 認知症ケア加算

【特掲診療料】

- ・ 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- ・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
- ・ 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）【歯科】
- ・ 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）【歯科】

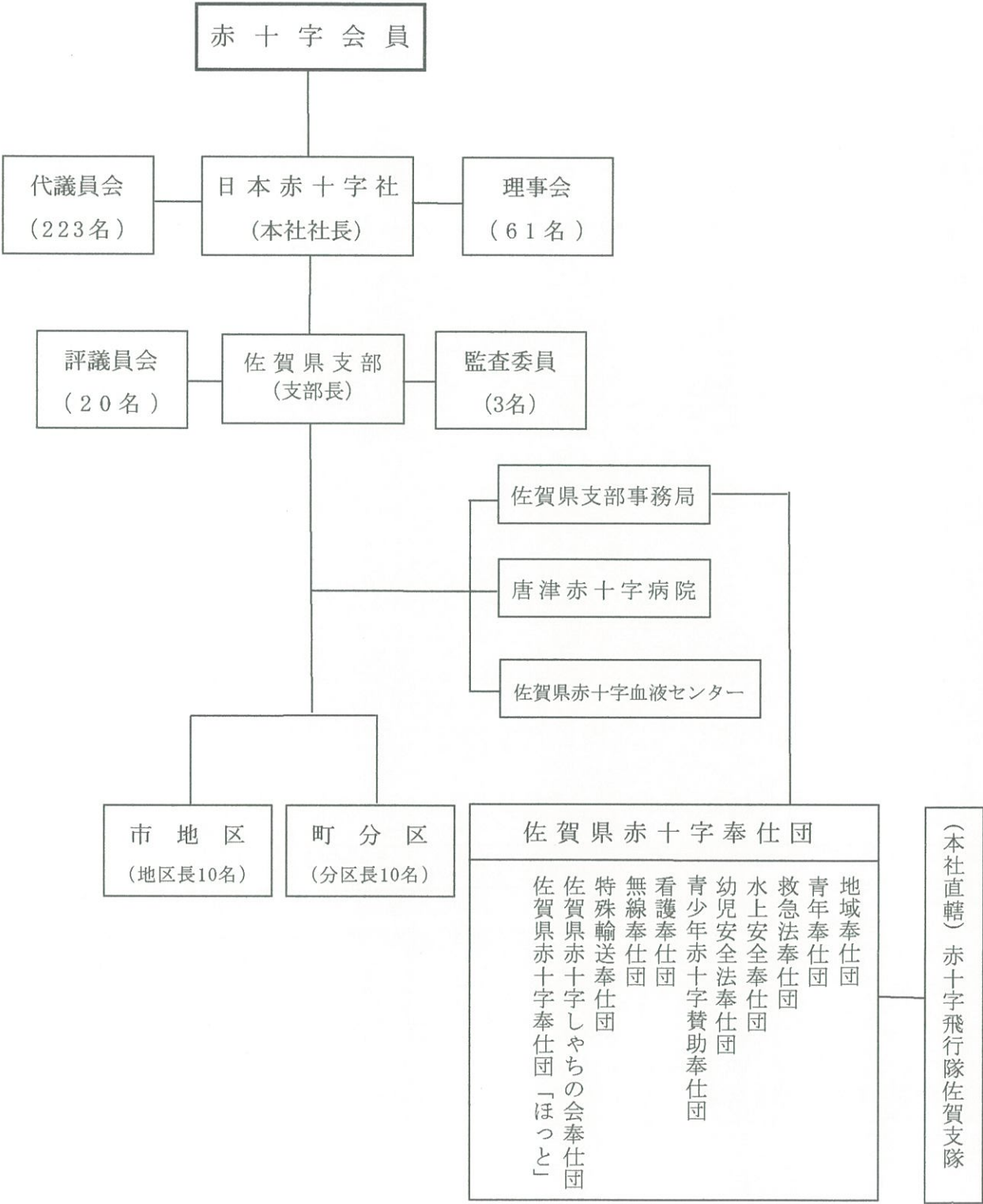
過去5年間の収支状況

		26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績	30年度 実績	前年同 期比 (%)
1日平均患者 (人)	外来	487	462	429	477	503	105.5 %
	入院	273	279	267	279	280	100.4 %
診療単価(円)	外来	14,771	16,242	17,531	18,016	18,949	105.2 %
	入院	55,292	54,847	54,565	57,422	58,553	102.0 %
外来収益(百万円)		1,748	1,814	1,814	2,051	2,316	112.9 %
入院収益(百万円)		5,503	5,592	5,352	5,761	5,992	104.0 %
収入(百万円)		7,611	7,722	8,737	9,179	9,369	102.1 %
支出(百万円)		7,339	7,504	10,058	10,420	9,500	91.2 %
収入－支出(百万円)		272	218	-1,321	-1,241	-132	—
借入金残高(百万円)		710	3,554	3,423	3,720	3,645	—

10 佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組織

(H31.3.31現在)



(2) 役 職 員

ア. 支部役員(H 3 1 . 3 . 3 1 現在)

職 名	氏 名	職 名 等
支 部 長	指 山 弘 養	前(株)佐賀銀行取締役会長
副 支 部 長	池 田 英 雄	佐賀県副知事
	川久保 三起子	佐賀県健康福祉部長
支 部 監 査 委 員	西 清 澄	元佐銀リース(株)社長
	峰 達 郎	唐津市長
	山 田 恭 輔	江北町長

イ. 佐賀県支部選出本社役員(H 3 1 . 3 . 3 1 現在)

職 名	氏 名	職 名 等
代 議 員 (本社理事)	中 富 博 隆	久光製薬(株) 会長
代 議 員	中 山 弘 志	(株) 中山鉄工所 社長

ウ. 評 議 員 (H 3 1 . 3 . 3 1 現 在)

番号	氏 名	支部長・地区選出の別	職 名 等
1	西 清 澄	支 部 長	元佐銀リース(株)社長
2	坂 田 勝 次	支 部 長	株式会社佐賀新聞社常務取締役
3	三 苫 紀美子	支 部 長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
4	伊 藤 正	支 部 長	佐賀県社会福祉協議会副会長
5	石 丸 義 弘	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達 郎	唐津市地区	唐津市長
8	橋 本 康 志	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横 尾 俊 彦	多久市地区	多久市長
10	深 浦 弘 信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小 松 政	武雄市地区	武雄市長
12	樋 口 久 俊	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀 次	小城市地区	小城市長
14	村 上 大 祐	嬉野市地区	嬉野市長
15	松 本 茂 幸	神埼市地区	神埼市長
16	伊 東 健 吾	佐賀中部地区 (神埼郡)	吉野ヶ里町長
17	末 安 伸 之	鳥栖地区 (三養基郡)	みやき町長
18	脇 山 伸太郎	唐津地区 (東松浦郡)	玄海町長
19	松 尾 佳 昭	伊万里地区 (西松浦郡)	有田町長
20	田 島 健 一	杵藤地区 (杵島郡・藤津郡)	白石町長

任 期 自平成31年2月14日 ～ 至平成33年2月13日

工. 日本赤十字社佐賀県支部事務局（H 3 1. 3. 3 1 現在）

職 名	氏 名
事務局長	船 津 定 見
事務局付部長兼総務課長	新 郷 幸 雄
事業推進課長	廣 田 聡
参 事	轟 木 安 枝

オ. 唐津赤十字病院（H31.3.31現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	志田原 哲	泌尿器科部長	明 利 浩 行
副 院 長	湯ノ谷 誠 二	産婦人科部長	佐 護 直 人
副 院 長	宮 原 正 晴	放射線科部長	眞 武 邦 茂
事務部長	池 田 隆 雄	リハビリテーション科部長	仙 波 英 之
看護部長	加 藤 英 子	麻酔科部長	白 武 孝 久
疾病予防センター長	茨 木 一 夫	救急科部長	中 島 厚 士
医療安全推進センター長（兼）	湯ノ谷 誠 二	病理診断科部長	明 石 道 昭
がん医療推進センター長（兼）	鮫 島 隆一郎	歯科口腔外科部長	林 田 淳之介
教育研修推進センター長（兼）	橋 本 重 正	薬剤部長（兼）	野 田 隆 博
救命救急管理センター長（兼）	中 島 厚 士	医療技術部長（兼）	仙 波 英 之
救命救急センター長（兼）	中 島 厚 士	医療社会事業部長（兼）	酒 井 正
患者総合支援センター（兼）	眞 武 邦 茂	医療技術部技師長	平 田 一 英
感染管理室長（兼）	宮 原 正 晴	薬剤課長	岩 田 和 弥
第1内科部長	野 田 隆 博	栄養課長	池 田 敦 子
第2内科部長	長 嶋 昭 憲	検査技術課長	永 石 信 二
第3内科部長	（欠）	放射線技術課長	坂 井 征一郎
第1循環器内科部長	森 唯 史	臨床工学技術課長	加勢田 達 矢
第2循環器内科部長	橋 本 重 正	リハビリテーション技術課長	麻 生 昭 秀
小児科部長	田 代 克 弥	事務副部長	貞 松 徳 美
第1外科部長	鮫 島 隆一郎	参 事	岩 本 幸 敏
第2外科部長	井久保 丹	広報推進室長（兼）	貞 松 徳 美
乳腺外科部長	田 渕 正 延	経営対策室長（兼）	宮 原 正 晴
呼吸器外科部長	小 島 勝 雄	総務課長	徳 田 孝 久
整形外科部長	生 田 光	会計課長	飯 島 新 吾
眼科部長	（故）木 村 篤 仁	医事課長	米 倉 稔 喜
耳鼻咽喉科部長	（欠）	情報システム課長	野 方 宏 紀
脳神経外科部長	鈴 山 堅 志	医療社会事業課長	入 江 富美夫
皮膚科部長	（欠）	診療支援課長	岩 本 利恵子
形成外科部長	西 平 智 和		

カ. 佐賀県赤十字血液センター(H 3 1 . 3 . 3 1 現在)

職 名	氏 名
所 長	松 山 博 之
事業部長	溝 上 博 之
事業副部長兼献血推進課長	鹿 毛 哲 也
総務課長	田 中 幸 徳
採血課長	小 島 律 子
供給課長	一ノ瀬 知早子
学術・品質情報課長	松 永 直 行
医務課長	山 本 恵 子

キ. 専任職員数 (H 3 1 . 3 . 3 1 現在)

施 設 名	職員数 (人)
日本赤十字社佐賀県支部	9
唐津赤十字病院	5 0 8
佐賀県赤十字血液センター	3 3

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（平成30年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県支部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 230,904人
法人 2,126法人

3. 役員

支部長 指山 弘養（元佐賀銀行会長）
副支部長 池田 英雄（副知事）
" 川久保 三起子（県健康福祉部長）
評議員 20人

（本社理事）中富 博隆

（本社代議員）中富 博隆 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保稚園	5園	672人
小学校	126校	28,282人
中学校	82校	21,158人
高等学校	36校	8,842人
特別支援学校	2校	201人
計	251校（園）	59,155人
指導者数		3,250人

（平成31年3月31日現在）

5. 赤十字奉仕団登録数

地域	34団	5,247人
青年	1団	32人
特殊	9団	230人
計	44団	5,509人

（平成31年3月31日現在）

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救急法	72人	4,297人
水上安全法	31人	1,714人
健康生活支援講習	9人	123人
幼児安全法	20人	754人
防災セミナー	6人	6,500人

（平成31年3月31日現在）

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	73局
車両等	救急車	2台	災害救援車	6台
	災害連絡車	4台	サヘメータ	1台
資器材	エアータント	2張	テント	78張
	ドラッシュテント	1張	（イージータント	22張）
	医療セット	3組	担架・ベット	52台
	NBC 災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	24台
救援物資	緊急セット	423セット	安眠セット	389セット
	毛布	2,020枚	非常食	1,443食
	パスタール	790セット	ブルーシート	208枚

（平成31年3月31日現在）

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	29科	病床数	304床
総患者数	224,560人			1日平均	
入院	102,338人			280人	
外来	122,222人			503人	

（平成31年3月31日現在）

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	17台
移動献血車（再掲）	2台	献血運搬車（再掲）	7台
献血者数		供給本数	
成分献血	11,896人	成分製剤	72,256本
100mL 献血	18,027人	全血製剤	0本
200mL 献血	255人		
計	30,178人	計	72,256本

（平成31年3月31日現在）

10. 会計（平成30年度歳入歳出決算） 単位：千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	200,527	149,942
唐津赤十字病院	9,368,835	9,500,385

11. 佐賀県赤十字有功会（平成9年発足）

会長 中富博隆
会員数116人

（2019/3/31 作成）

日本赤十字社現勢

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

日本赤十字社スローガン 人間を救うのは、人間だ。

赤十字の基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

1949年のジュネーブ四条約締約国

196カ国

世界の赤十字社・赤新月社等

191社

1. 沿革

明治10年(1877) 5月 1日 博愛社設立
明治20年(1887) 5月20日 日本赤十字社に改称
昭和27年(1952) 8月14日 日本赤十字社法制定

2. 名誉総裁・名誉副総裁（令和元年5月1日現在）

名誉総裁 皇后陛下
名誉副総裁 秋篠宮皇嗣妃殿下
常陸宮殿下・同妃殿下
三笠宮妃殿下 寛仁親王妃信子殿下
高田宮妃殿下

3. 会員

個人 12.3万人
(平成30年3月31日現在) 法人 6.8万法人

4. 評議員

2,007人

5. 代議員

223人

6. 役員

社長 近衛 忠輝 (常勤)
副社長 大塚 義治 (常勤) 中西 宏明 (非常勤 平成30年5月22日就任)
理事 61人 (常勤1人、非常勤60人)
監事 3人 (非常勤)

7. 青少年赤十字（平成30年3月31日現在）

幼稚園・保育所	1,663校	142,526人
小 学 校	6,962校	1,918,716人
中 学 校	3,443校	952,352人
高 等 学 校	1,893校	279,937人
特 別 支 援 学 校	166校	15,422人
計	14,127校	3,309,153人
指 導 者	212,863人	

8. 赤十字ボランティア（平成30年3月31日現在）

地域赤十字奉仕団	2,132団	1,211,009人
青年赤十字奉仕団	158団	7,367人
特殊赤十字奉仕団	642団	33,750人
個人ボランティア	-	4,439人
計	2,932団	1,256,565人

9. 救急法等の講習

登録者数（平成30年3月31日時点）			受講者数 (平成29年度)
	指 導 者	資 格 者	
救急法基礎講習	11,118人	179,977人	50,398人
救 急 法	6,903人	109,370人	495,506人
水 上 安 全 法	1,647人	9,187人	69,875人
雪 上 安 全 法	240人	1,077人	585人
幼 児 安 全 法	2,328人	16,120人	78,507人
健康生活支援講習	1,671人	10,978人	93,878人
計	23,907人	326,709人	788,749人

10. 看護師等の教育

施設数	学 年 養 成 定 員
大学（大学院併設6）	看護師 22校 1,315人
短期大学	助産師 6校 92人
看護専門学校	保健師 6校 155人
助産師学校	幹部看護師 1校 120人
幹部看護師研修センター	介護福祉士 1校 50人
計	25

11. 国際活動

国際救援・開発要員派遣（平成29年度）	9カ国 のべ143人
国際赤十字・赤新月社連盟出向	3人(スイス、マレーシア、ケニア)
赤十字国際委員会出向	1人(ナイジェリア)
国際援助額（平成29年度）	28億円

12. 国内災害救護

常備救護班	487班	8,740人
無線局	(平成30年3月31日現在)	3,527局
救護車両		668台
赤十字飛行隊(特殊奉仕団)		132機
災害等救護出動（平成29年度）	5件	210人
取扱義援金額（平成30年3月31日現在）		
1. 平成29年度受付義援金（東日本大震災を除く）	35億5,609万9,154円	
2. 東日本大震災における受付義援金	3,402億8,777万6,233円	
配分救護物資(毛布・緊急セット等)	1万7,581個	

13. 医療事業

施設数		
病院	診療所	5
	老人保健施設	6
病床総数		36,317床（平成30年3月31日現在）
総患者数（平成29年度）		1日平均
入院	1,085万人	2.9万人
外来	1,662万人	6.7万人

14. 血液事業

施設数		
地域血液センター	47	ブロック血液センター 7
附属施設	173	(分置施設 6)
(献血ルーム121を含む)		
献血者数（平成29年度）		供給本数（平成29年度）
成分献血 132万人	輸 血 用 製 剤	1,770万本
400mL 献 血 326万人	車両台数(平成30年3月31日現在)	
200mL 献 血 15万人	献 血 迎 搬 車	797台
計 473万人	移 動 採 血 車	284台

15. 社会福祉施設

児 童 福 祉 施 設 数（定員）		
乳児院	8 (293)	医療型障害児入所施設 3 (286)
保育所	3 (358)	
児童養護施設	1 (40)	
老 人 福 祉 施 設 数（定員）		
特別養護老人ホーム（併設ケアハウス20人を含む）	8 (773)	
障害者福祉施設数(定員)	複 合 型 施 設	1 (定員)
障害者支援施設 1 (50)	特別養護老人ホーム	(110)
視聴覚障害者情報提供施設 2	介護老人保健施設	(100)
補装具製作施設 1	高齢者グループホーム	(18)
	障害者支援施設	(10)

16. 施設及び職員（平成30年4月16日現在）

施 設 数		職 員 数
本 社	1	533人
支 部	47	699人
医 療 施 設	103	58,764人
看 護 師 等 養 成 施 設	25	555人
血 液 事 業 施 設	226	6,146人
社 会 福 祉 施 設	28	1,207人
研 修 セ ン タ ー	1	
計	431	67,904人

17. 会計（平成30年度当初予算）

一 般 会 計	本社	159億2千万円
	支 部	187億3千万円
医 療 施 設 特 別 会 計		1兆924億1千万円
血 液 事 業 特 別 公 計		1,577億9千万円
社 会 福 祉 施 設 特 別 会 計		157億8千万円

(特に断りのない統計数字等は、平成30年4月1日現在)



(佐賀県庁に掲げられた懸垂幕)

○日本赤十字社佐賀県支部

〒840-0843
佐賀市川原町2番45号
TEL0952-25-3108、FAX0952-25-4184

○唐津赤十字病院

〒847-8588
唐津市和多田2430番
TEL0955-72-5111、FAX0955-72-9530

○佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925
佐賀市八丁畷町10番20号
TEL0952-32-1011、FAX0952-32-2002